

平成24年3月3日(土)

午前9時30分～

若葉区保健福祉センター3階大会議室

出席者 武委員長、大嶋副委員長、横山副委員長、池野委員、石川委員、江尻委員  
大島委員、香取委員、金子委員、田沼委員、津田委員、野澤委員、野村委員  
廣川委員、藤森委員、柳原委員、山内委員、山谷委員、横濱委員、和田(文)委員  
岩成区長、菊谷所長、飯田室長、山口地域福祉課補佐、景山主任主事、辻川係長、  
堤主任主事、中川主事  
青木事務局次長、並木所長、星崎主任主事、平木主任主事

並木 資料確認

区長 若葉区地域福祉計画推進協議会へのご参加ありがとうございます。皆さんご存知の通り、若葉区は千葉市の中でも高齢化が進んでおり、今後は高齢者への対応が行政、地域での柱となっていく。推進協がこれからのまちづくりを進めていく上での重要な役割を担っていくと考えている。今年度から自治会分科会・地区部会分科会にわけ、地域へ出向き実情の把握、支え合い組織の結成について働きかけをしていただいた。平成18年度よりこれまで、多くの委員の考えを基に、地域福祉計画が現場に向けて動き出したという感がある。

私も各地区連へ説明に出向き、各自治会長に対し支え合いについて説明させていただいた。200ある自治会の中から144の自治会に参加していただいたが、支え合い組織の必要性については強く意識しているものの、多くの自治会が実現に向けてはハードルの高さを感じている。

他の区長とも話をしたが、若葉区が一番進んでいると感じる。また、皆さんの活動についても、市長の懇談会において報告をさせていただいている。

来年度に向けての活動について3点ほど申し上げたい。昨年度、武委員長よりご要望のあった、地域振興課職員の推進協への積極的な参加及び協力、委員自ら積極的な地域への関わり、支え合い組織立ち上げに向けて、広報ソフト「若葉区まちづくり支援システム」の立ち上げについて、千葉市はもちろん、国内でも画期的なシステムとなっており、活動に役立てていただきたいと思う。

青木 推進協が平成16年から行政の計画として始まったが、若葉区の推進協の活動については、ほかの区よりも盛んに行われており、素晴らしい成果を上げていると感じる。社協でも23年度より計画をスタートしているが、4つの基本目標のもと活動を行っている。その中で、83の取組項目があるが、最重要課題として、担い手づくり、見守りシステム体制づくりを考えており、皆さんと一緒に進めていきたいと思う。

並木 それでは議題に入ります。

武 本年度最後の推進協となるが、皆様のご尽力のおかげである程度まとめることができた。

それでは、自治会分科会の報告を大嶋副委員長にお願いしたい。

大嶋 今年度、3班に分け自治会訪問班、情報収集班、広報班に分けたが、私からは訪問班としての報告をさせていただきます。

(資料に沿って説明)

当初、40団体を予定していたが、その中で、区長が自ら地区連協への説明を行い、その中から17の自治会が説明を求めてきた。その17の自治会からは貴重な情報が得られたと考えている。

自治会長の任期は60パーセントが1年で、これでは何もできないと考えていた。しかし、そのような

考えは間違いで、会長任期1年の自治会でも活動が盛んな自治会もあることがわかり、改めて考える部分だと思う。

世帯規模の多い自治会をセレクトし、評価については4段階でおこなった。夫々の自治会には地域性、歴史等があり、ふれあい活動については、ほとんどがおこなっており、サロン活動として実施している。自治会の組織としての活動が今後望まれる。

活発な自治会活動を行っている場所は、サロン活動も盛んに行われている。

支えあい活動については、市内においても先進的な事例となる活動を行っている自治会と、そうでないところが二極化されていると感じる。

役員のなり手（担い手不足）がおらず、今後の課題となる。

見守り活動については、各自治会様々な問題をクリアしなければならず、実施している自治会は現在9団体。

ただ、見守りについてはやらなければいけないという意識は各自治会長は持っている。

介護予防については、介護保険が改定されるにあたり、今後注目していきたいと考える。活動が活発な自治会は講習会などを開催するなどしている。

地区部会との連携については、ほとんど連携していないというのが現状。

関係はあるが、地区部会からの依頼がない限りは連携していない。

地区部会と自治会のすみわけをはっきりとさせて考えていかなければならない。

武 それでは地区部会分科会の報告を行う。

一昨年、議論の中で、福祉計画は立派なものだが、中身が伴わないなど2年かかった。大嶋委員の話の中で、地区部会がという話が出たが、自治会・地区部会両方に問題があると考えられる。

地区部会分科会の今後の攻め方として、事務局と推進協が一体となって活動し、地域福祉の問題以前に地区部会活動を一回洗いなおすことが必要と考えられる。

（資料に沿って説明）

一般的にいえることだが、自治会との連携・地区部会の在り方、団体に対しての指導について、また、地区部会は地域の広範囲活動で、地域福祉というのは、地区部会をどのように動かし、どのように連携するのか、明確な答えが出ていない。パートナーという意識ではなくもっと強く指導しなければならぬ。

見守り・支えあい以前に、地区部会の在り方にも問題があり、正確に把握していない部分がある。自治会の中には見守りは地区部会が行えばよいという考えのところがあり、そのような考えは間違っている。地区部会の規模の問題で、大型の地区部会、中規模の地区部会、小規模の地区部会と3つくらいに分かれていて、高齢者見守りを始めるに当たり、プロセスは異なると考えられる。

大嶋 それでは、自治会分科会広報宣伝班の報告をしたいと思う。

山内 広報は福祉活動の面で、活動などを広く住民へ広めていくことが最重要課題。基本的なコンセプトとして、住民を巻き込み、地区部会・地域施設などと連携し、担い手を育てていくかが課題。

様々な先進事例などを広報誌に盛り込み、見守りなども含め、問題は大きいという認識を持ってもらう。

大嶋 それでは情報収集班の活動について報告してもらいたい。

田沼 5人の委員がいるが、はっきり言って情報収集班としての活動は一切していない。どのように情報を集めどのように処理してよいのかが不明。個人的にNPOの情報を星崎さんへ提出しており、その団体を調べるにあたり、様々な団体をピックアップしたが、若葉区には団体はそれほど多くなく、その中でも活発に活動している団体もあることが分かった。ただ、現状の活動で精一杯で、団体間での情報交換の場がなく、先細りの状態になってしまっているのが現状。

地域の団体が元気に活動していくために、ボランティアセンターなどと協働し、地域活動を進めていく

ことが大事ではないかと考える。

武 質疑応答をしたい。

山内 今後の課題について、地区部会の現状・自治会の現状が見えた中で、地区部会の方向性が明確ではなく、構成などをはっきりさせる必要があるのでは、一体化していないのでは。課題共有をし、地域の皆さんと協働していかなければいけないのでは。

武 各地区部会話を聞き、現状がわかった時に、自治会でできない仕事に関して、地区部会が行う、小地域での活動を自治会でやるなど、自治会館での活動を増やす形をとり、連携をうまくとることが今後の課題と考えられる。

田沼さんの話の中でもあったが、地域のNPOが元気になるには自治会・地区部会をどのように巻き込んでいくかが必要ではないかと考える。

田沼 先ほどの話の中で、団体はそれほど多くないが、地域の方と連携し活動することが望まれる。

藤森 若葉区には32の老人クラブに加入しているグループがあり、友愛活動へ加盟している方が101名登録している。先月も会議の中で推進協の話をタイムリーにしておき、老人クラブでもできることがあるだろうという事で、組織づくりへの協力を呼びかけると同時に、老人クラブの中でも多くのボランティアが登録しており、活動への積極的な参加を呼び掛けている。

武 次年度の推進協の進め方について、話の中でも出ているが、自治会分科会の活動から大嶋委員にお願いする。

大嶋 23年度の活動を踏襲し、自治会への訪問、PRを中心に活動していく。実践活動あるのみで24年度は考えている。まちづくり支援システムが6月ごろから始まるので、タイアップして訪問活動に生かしていきたい。4~5月は準備段階のため、活動は控える。

各自自治会によっては考え方も違い、そのような自治会へは必要性も説きながら行っていく。広報宣伝についても、先行事例を発信していくことがメインとなり、福祉だよりがキーになると考えている。

武 それでは地区部会の進め方について説明する。

資料の中で、地区部会・市社協の話し合いの中で出てきた問題だが、高齢者見守りについては、当加曽利地区部会では活動を始めていく。おひとりさまでもだじょうぶノート(310円)というものもある。助け合い活動は自治会がメインで、地区部会としては活動が行われていないので、加曽利地区部会が先行事例というわけではないが、随時皆さんへは情報の提供をしていきたいと考えている。

地区部会の担い手にも問題があり、最初のキーポイントとなると考えている。役員構成にも問題があり、地区部会がどのようにしたら満足な形が取れるかが課題となる。

また、サロンの開催など地域とどのようにリンクしていくのかも大きな課題となり、議論の余地がある。地区部会の独自の活動、昔ながらのシステムも考え直す必要性がある。

見守り助けあい活動の先進事例を収集し、先進的な考えはどんどん取り入れていく必要があると思う。自治会との問題にもなるが、自治会単体で攻めるより、地区部会本体を攻めた方が効果があると感じる。地区部会活動エリアの問題、福祉活動推進員の在り方、研修内容について、これまで全く役に立たなかったとは言わないが、現場を知らない人が開催している感がある。

最大の問題は、災害時における要支援者見守り事業への関わり合いで、民生委員を含めて宣伝する必要性がある。

地区部会と市社協はパートナーという関係ではなく、社協は指導するような立場でいてもらいたい。

和田文 24年度の自治会分科会の活動について、状況確認と活動の推進とあるが、地区部会では自治会と連携し見守り活動をどのように行っていくか検討中で、小倉地区部会では現在アンケート調査を実施している最中だが、自治会分科会はどのような説明を行っているのか。

地域振興課の方で自治会へアンケートを実施しているはずだが、その結果を公表してもらいたい。

飯田 アンケート調査については昨年5月に各自治会総会時に行っているが、この結果については、資料を配布していると思う。

中川 第2回の全体会で配布している

和田文 支えあい・見守りについては地区部会一体となって行おうとしている。自治会へは協力者として参加してもらいたいと考えている。

それは、自治会の役員は短い期間での交代が多くを占めているのに対し、地区部会は数年、活動される方は長い期間活動される方もいるので、説明は全体会などで意見を少しまとめてから自治会へ出向いた方が良いのでは。

武 取り組み方法については、新年度より考えていくことになる。各自治会が進めていく取組については、私が各自治会長と話をしてきた。やらないところについては、放っておく。逆に積極的に参加したいという自治会もあり、そのような場所と連携を行う。外部団体との協働も行い、見守りに参加してもらう。

大嶋 自治会と地区部会のすみわけをしなくてはならないという事は分かっている。

小倉地区部会では活動が盛んという事もわかっている上で、活動のやり方によっては自治会単体で行った方がスムーズに行くこともある。逆に広域で行った方が良い場合もある。スケールメリットを考えたときに、地区部会が行うものなのか、自治会が行うものなのか考えればよい。

明確にすみわけができていないのも問題で、小倉のように地区部会が全て担っていくという地区部会もあれば、そうでない地区部会があるのも現状で、これからの課題でもある。

武 来年度の課題がかなりクリアであり、深く突っ込んでいく必要がある。

活動評価についてはアンケートにて意見を伺い、議論したいと思う。

並木 次年度の支えあいの進め方について話があったが、活動をどのように広めていくか、自治会・地区部会の役割・活動の在り方を整理していかなければならないと考えている。その中で、自治会・地区部会の連携が取れていないのが現状で、関係の在り方も考えていかなければならない。

地区部会分科会の中で、自治会訪問の際にはご自分のエリアに関しては同行するという形で各会長には理解を得ている。

区長 大嶋委員の話の中で、自治会役員のなり手がいないという話があったが、これからの高齢者への支え合い組織のリーダーとなることにもつながってくると思う。若葉区には200の自治会があるが、現職の市の職員・OBを含めると自治会には7~8人おり、県庁職員などを含めるとその倍はいるのではと思われ、その方々に声掛けをしていきたいと考えている。

若葉区では行政と社協が協力していきたいと思う。